

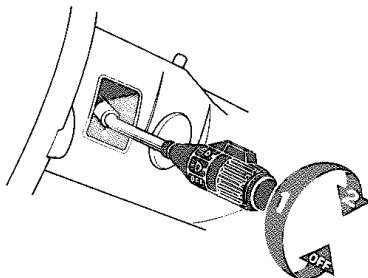
運転装置、室内装備の使い方

スイッチの使い方	16	シート・ベルトの装着	33
ライト・スイッチ	16	フロント・シート・ベルト	33
方向指示レバー	16	リヤ・シート・ベルト	35
ワイパー/ウォッシャー・スイッチ	17	室内装備の使い方	37
リヤ・ワイパー/ウォッシャー・スイッチ	17	時計	37
リヤ・ウインドウ・ガラス曇り取りスイッチ	18	エンジン・キー照明	38
駐車灯スイッチ	18	室内灯とドアの関係	38
非常点滅灯スイッチ	19	フロント・スポット・ライト	39
運転装置の操作	19	シガレット・ライター	39
エンジン・スイッチ	19	灰皿	39
エンジン始動	20	グローブ・ボックス(小物入れ)	40
エンジン・ヒーター	21	化粧ミラー付きサン・バイザー(日よけ)	40
吸気温度切り替えレバー	22	コンソール・ボックス(小物入れ)	40
チェンジ・レバー	23	車体各部の開閉	41
オーバードライブ・スイッチ	25	フロント・ドア	41
駐車ブレーキ・レバー	25	リヤ・ドア	41
チルト・ステアリング(上下調整式ハンドル)の調整	26	電磁式ドア施錠装置	42
ミラー調整	26	チャイルド・プロテクター(安全施錠装置)	42
E F I(電子制御式燃料噴射装置)	27	電動ウインドウ	42
E S C(電子制御式横すべり防止装置)	27	ボンネット	43
オート・ドライブ(自動定速走行装置)	28	燃料タンク・キャップ	44
シートの調整	29	トランク	44
フロント・シートの位置調整	29	バック・ドア	45
シート上下位置調整装置	30		
ランバー・サポート(腰部当たり調整)	30		
ヘッド・レストの位置調整	30		
リヤ・シートへの乗り降り	31		
リヤ・シート	31		



スイッチの 使い方

■ライト・スイッチ



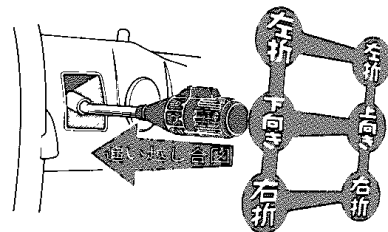
エンジン・スイッチに関係なく、ランプが点灯します。
ツマミを回すと①、②の位置で、次の○印のランプが点灯します。

灯 火 名	①	②
前 照 灯	△	○
車 幅 灯, 尾 灯	○	○
番 号 灯	○	○
計 器 照 明 灯	○	○

▶ ランプ消し忘れ警告ブザー *

走行後、ライト・スイッチがONのまままでエンジン・スイッチを切ると、ブザーが鳴りランプ類の消し忘れを警告します。

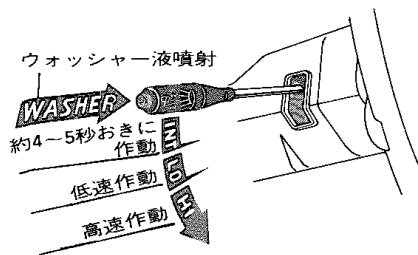
■方向指示レバー



レバーを手前に引くと前照灯が点灯し手をはなすと、もとの位置にもどります。高速道路などで先行車を追い越すときなどの合図に使用します。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■ ワイパー/ウォッシャー・スイッチ



STD車は、LOとHIの2段切り替えです。

▶ ウォッシャー連動式ワイパー

STD車を除く

ウォッシャー・スイッチを0.5秒以上押すとウォッシャー液を噴射し、約1秒後にワイパーが2～3回作動します。

★ウォッシャー・タンクがカラのときは、ウォッシャー・スイッチを使用しないでください。ポンプを痛めることがあります。

★からぶきはガラスを傷つけることがあります。必ず、ウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。

★寒冷時は、ワイパーを作動させる前

に、ワイパー・ゴムがガラスに張りついていないことを点検してください。

凍結したまま作動させるとモーターが故障することがあります。



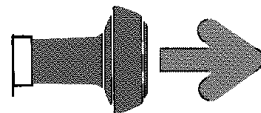
寒冷時にウォッシャー液を使用するときはガラスに放射された液が凍結し、視界不良を起こすことがありますので先にウィンドウ・ガラスを暖めてください。

■ リヤ・ワイパー/ウォッシャー・スイッチ *

ウォッシャー液噴射

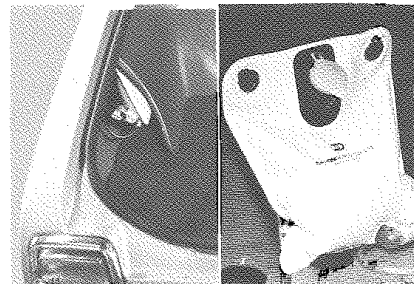


ワイパー作動



▶ リヤ・ウォッシャー・タンク

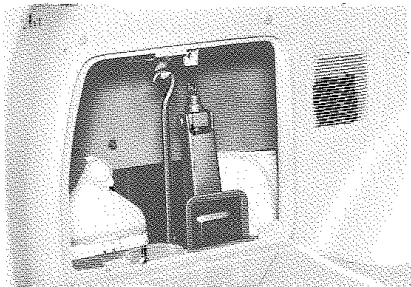
ハードトップ車



トランク内左側に取り付けてあります。

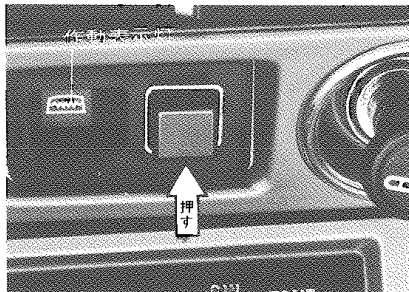
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

ワゴン/バン車



荷室の左側のカバー内に取り付けてあります。

■ リヤ・ウインドウ・ガラス曇り取り
スイッチ *



リヤ・ウインドウ・ガラスが曇ったとき、ガラスの表面を暖めて、曇りを取ります。スイッチを押すとONになり、作動表示灯が点灯し、作動していることを示します。

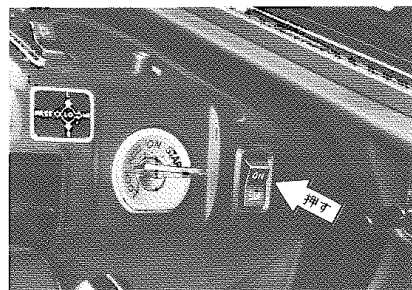
もう一度押すとOFFになります。

★リヤ・ウインドウ・ガラスの曇りが消えたら、スイッチは必ず切りましょう。曇り取り装置は消費電力が大きいので、スイッチを入れたままにしておくと、バッテリーあがりの原因になります。

★曇り取り以外には、使用しないでください。雨水の乾燥や雪を溶かすことはできません。

☆熱線入りガラスの清掃は、ぬらした布で熱線にそって、軽くふいてください。ガラス・クリーナーなどは使用しないでください。

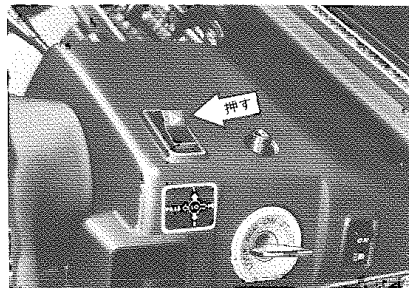
■ 駐車灯スイッチ



路上駐車時に使用します。

スイッチをONにすると、前後左右の駐車灯が点灯します。

■非常点滅灯スイッチ

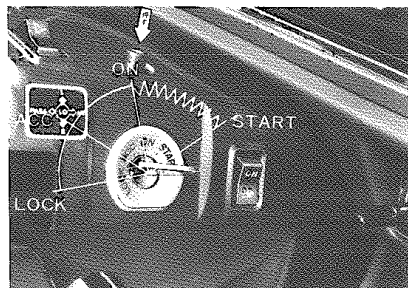


故障などで、やむをえず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用します。スイッチを押すと、すべての方向指示灯が点滅します。

走行中、異常がないのに使用すると他車の誤解をまねき危険です。

運転装置の 操作

■エンジン・スイッチ



LOCK ……キーを抜き差しできる位置。キーを抜くと、ハンドルがロックされます。

ACC ……エンジン停止時、ラジオ、ステレオの聞ける位置。およびシガレット・ライターの使用できる位置。

ON ……エンジン回転中の位置。

ディーゼル車は始動時予熱プラグを予熱します。

START ……エンジン始動をする位置。手をはなせば、自動的にONにもどります。

〈ロックするときは〉

ボタンを押しながらキーをLOCKの位置に回します。キーを抜くとハンドルがロックされ車両盗難防止に役立ちます。

★キーがLOCKからACCに回らないときは、ハンドルを軽く左右に動かしながら、キーをACCに回してください。

★バッテリーあがりを起こさないために、下記の事項を必ず守ってください。

1. エンジン停止時は、スイッチをLOCKまたはACCにする。

長時間停止する場合は、LOCKの位置にする。

2. エンジンがかからないとき、15秒（ディーゼル車は30秒）以上STARTの位置へ回したままにしない。
3. エンジンを止めた状態（ON, ACC）で、ラジオやステレオを長時間つけたままにしない。

■エンジン始動

チェンジ・レバーの位置をトランスミッション車は⑨、オートマチック・トランスミッション車は⑩にします。

ガソリン車（EFI車を除く）

<エンジンが冷えているとき>

1. アクセル・ペダルを次表にしたがって踏み込みます。

外 気 温	踏 む 回 数
+5℃以上	軽く1回
+5℃～-10℃	いっぱい1～2回
-10℃以下	いっぱい2～3回

2. アクセル・ペダルから足をはなし、エンジンを始動します。

3. しばらく暖機運転をします。
自動チョークが働いていますのでエンジン回転は徐々に高くなります。
4. 回転が高くなったときは、アクセル・ペダルを軽く踏んでから足をはなし回転を下げてください。



エンジンが暖機されると自動的に回転は下がりますが、暖機運転中は回転が高くなりすぎることがあります。外気温によってことなりますが約20℃のときであれば、エンジン始動後約30秒でアクセル・ペダルを軽く踏んでなし回転を下げてください。

<エンジンが暖まっているとき>

アクセル・ペダルを半分程度に踏み込んだままエンジンを始動してください。

ガソリン車（EFI車）

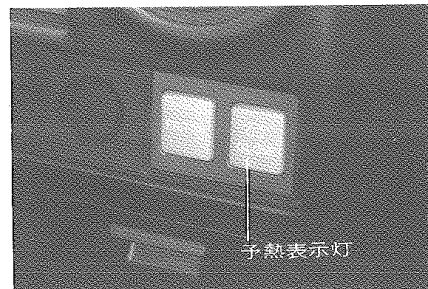
1. アクセル・ペダルから足をはなし、そのままエンジンを始動します。
2. そのままで、しばらく暖機運転を

します。暖機が終われば自動的にアイドル回転になります。

ディーゼル車

ディーゼル車の始動はガソリン車と異なり、予熱プラグの予熱が必要です。

1. エンジン・スイッチをONにする
と予熱表示灯が点灯します。



2. 予熱プラグの予熱が完了し、表示灯が消灯したらアクセル・ペダルを半分程度踏み込み、スターターを回します。

★予熱時間は、エンジン冷却水温により自動的に制御され、冷却水温の低いとき、および寒冷時には多少長くなります。

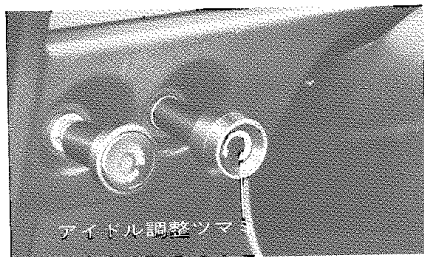
3. エンジンの回転が完全に持続する

まで、スターターを回してください。

★スターターを回し続けて約30秒経過しても始動できない場合は、いったんエンジン・スイッチをACCの位置にもどし、少し間をおいてから1~3をくりかえしてください。

★エンジンが暖まっているときは、予熱表示灯に関係なく始動できます。

4. エンジン始動後は、アイドル調整ツマミを右方向に回してエンジンが安定して回る所まで回転をあげ、十分暖機運転をしてください。



5. 暖機後は、アイドル調整ツマミを左にいっぱい回し、標準のアイドル回転にもどしてください。

★寒冷時エンジンが冷えている状態では、アイドル回転数が下がりますので始動前にアイドル調整ツマミを右に回してください。
始動後、暖機が終わりましたらアイドル調整ツマミを左に回してください。

■エンジン・ヒーター*

ディーゼル車のみ

寒冷時電熱ヒーターにより冷却水を暖めて始動性を良くします。

通電時間は気温や周囲の状態などにより異なりますが、およそ次の時間を目安にご使用ください。

外気温	通 電 時 間	
	トランスミッション	オートマチック・トランスミッション
-20℃	30分以上	60分以上
-25℃	60分以上	90分以上
-30℃	90分以上	120分以上

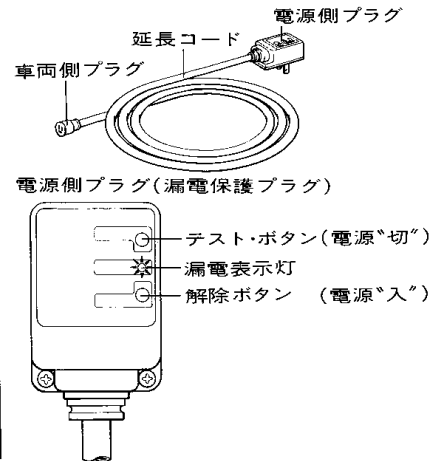
なお、通電時間が長い程暖機運転時間の短縮およびヒーターの速効性に効果があります。

また、長時間通電しても過熱の心配は

ありません。

＜使用方法＞

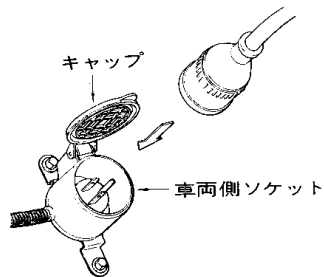
1. 冷却水の量が適正であることを確認します。(70ページの「冷却水の量」の項目を参照してください。)
2. 延長コードの電源側プラグを電源コンセント (AC100V) に差し込み、テスト・ボタンを押して漏電表示灯が点灯することを確認します。次に解除ボタンを押して (表示灯は消灯) コードをコンセントからはずします。



*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

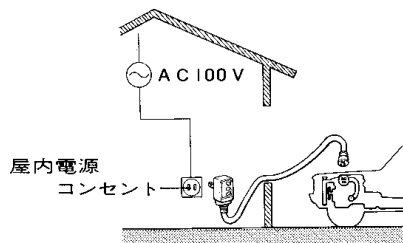
☆使用前と月1回以上、上記のテストを行なってください。万一、テストボタンを押しても正常に作動しない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

3. 延長コードを車両側ソケットに確実に差し込み、ボンネットを軽くしめます。



コードを損傷させないようにボンネットはロックするまでしめないこと。

4. 延長コードのもう一方をAC100Vコンセントに差し込みます。これでエンジン・ヒーターに通電されます。



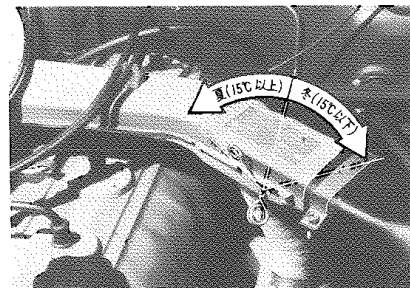
☆通電中に漏電表示灯が点灯（電源“切”）した場合は、一度解除ボタンを押してください。解除後も点灯するときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

5. コードの取りはずしは電源側から行ない、車両側ソケットのキャップをしめます。

☆エンジンを始動する前に必ず延長コードを取りはずし、車両側ソケットのキャップをしめてください。

■吸気温度切り替えレバー

バン車のみ

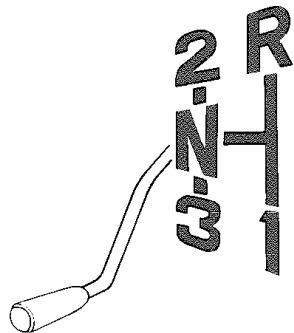


吸気口横のレバーを前後に移動させることにより、エア・クリーナーにはいる空気の温度を調整することができます。（レバーの操作は外気温15℃を基準に行ないます。）

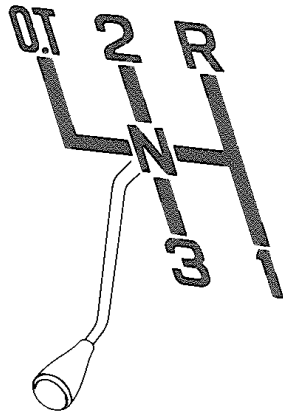
■チェンジ・レバー

▶トランスミッション

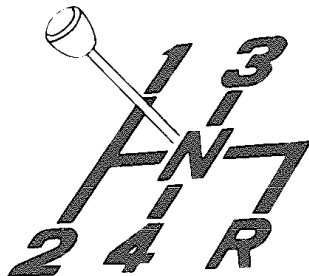
〈3速ハンドル・チェンジ〉



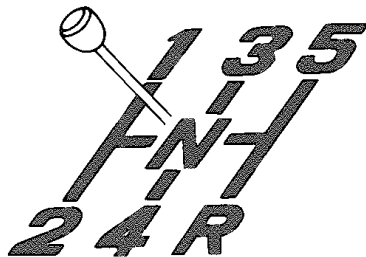
〈4速ハンドル・チェンジ〉



〈4速フロア・チェンジ〉



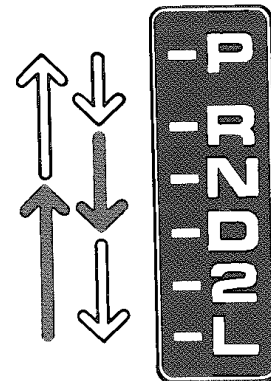
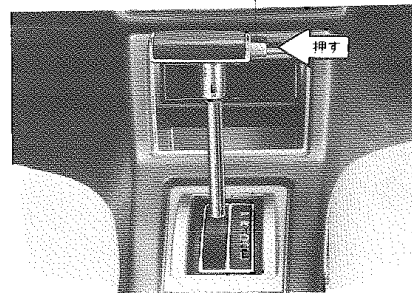
〈5速フロア・チェンジ〉



▶オートマチック・トランスミッション

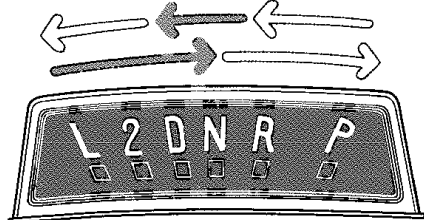
〈フロア・チェンジ〉

チェンジ・レバー・ボタン



- そのまま動かします。
- チェンジ・レバー・ボタンを押して動かします。

〈ハンドル・チェンジ〉



→ そのまま動かします。

⇨ 手前に引いて動かします。

▶ 各レンジの使いかた

Ⓔ パーキング（駐車）位置

駐車およびエンジン始動の位置。

Ⓕ リバース（後退）位置

バックさせるときの位置。

Ⓖ ニュートラル（中立）位置

この位置でもエンジンを始動することができますが、安全のためにⒺレンジで始動しましょう。

Ⓗ ドライブ（通常走行）位置

通常走行の位置。

Ⓖ セカンド（2速）位置

エンジン・ブレーキが必要な場合に使う位置。

Ⓖ ロー（1速）位置

強力なエンジン・ブレーキが必要な場合に使う位置。

50km/h以上（ディーゼル車は40km/h以上）では使用しないでください。

▶ 運転のしかた

1. 通常はⒽで発進すると、ロー・ギヤからスピードによりセカンド・ギヤ、トップ・ギヤにと自動的に切り替わります。
2. トランスミッション車と同様に、Ⓖから発進し、ⒼからⒽへと手動の操作でも運転できます。
3. 急坂路を下るときは、路面状態やスピードに応じてⒼまたはⒼに入れて、エンジン・ブレーキをかけます。
4. 追い越しなど急加速をしたいときは、アクセル・ペダルをいっぱい踏み込むと、レバーはⒽでも、ギヤはトップからスピードによりセカンド、またはロー・ギヤに切り替わって急加速ができます。

（キック・ダウン操作）

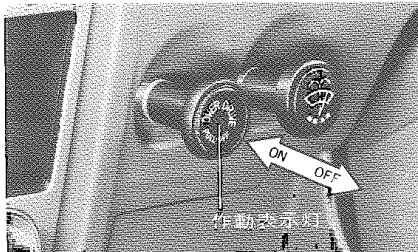


1. エンジンを始動するときは、必ず駐車ブレーキ・レバーを引いてから行なってください。
2. ⒺとⒼへは、車が完全に止まってから入れてください。
3. 停車中、Ⓔ以外では、エンジンを高回転にしないでください。
4. アクセル・ペダルを踏み込んだまま、ⒼからⒽまたはⒼへ切り替えないでください。また、停車中にチェンジ・レバーを切り替えるときは、ブレーキをかけた状態で行なってください。
5. 駐車時は、必ず駐車ブレーキをかけ、チェンジ・レバーをⒺにしてください。
6. ⒼからⒽへ完全にチェンジ・レバーを入れてから（1秒たって）アクセル・ペダルを踏み込み発進してください。
7. ⒺⒼ以外で停車しているときはブ

ブレーキを踏むか、駐車ブレーキ・レバーを引いてください。

■オーバードライブ・スイッチ

〈オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッション車〉 *



オーバードライブ装置付き車は3速オートマチック・トランスミッションにオーバードライブ装置を加え4速オートマチック・トランスミッションとしたものです。

1. 通常はオーバードライブ・スイッチをONにしておいてください。
3速オートマチック・トランスミッションと同じ操作で4速オートマチック・トランスミッションとして使用することができます。

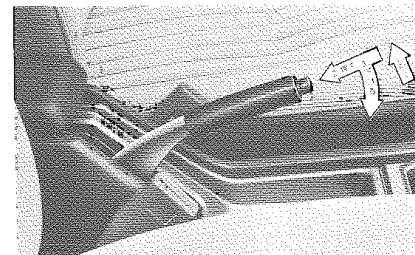
2. オーバードライブが作動しているときは、ツマミ内の作動表示灯が点灯します。
3. オーバードライブ・スイッチを引いて (OFFにして) おけば通常の3速オートマチック・トランスミッションになります。



1. 登山道路など長坂路を上り下りするときは、スイッチを引いて (OFFにして) おいてください。
2. 強いエンジン・ブレーキが必要なときは、スピードに応じて②または③に入れてください。
ただし、すべりやすい路面では、タイヤがすべって危険ですので急激なエンジン・ブレーキをかけることはさけてください。

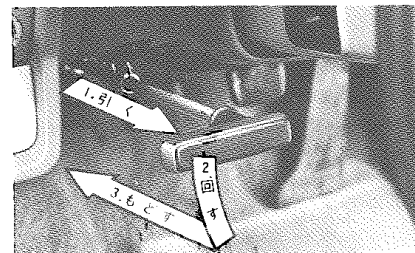
■駐車ブレーキ・レバー

▶フロア・チェンジ車



駐車時いっぱい引いて使用します。もどすときはレバーを少し引き上げながら先端のボタンを押えてもどします。

▶ハンドル・チェンジ車



駐車時いっぱい引いて使用します。もどすときはレバーを軽く引きながら下に約60°回してもどします。
走行する前にレバーをもどして必ず

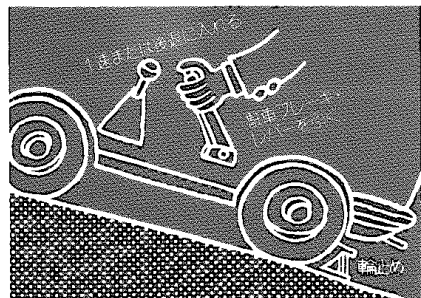
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

レーキ警告灯が消えたことを確かめてください。



駐車ブレーキ・レバーを引いたまま走行するとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

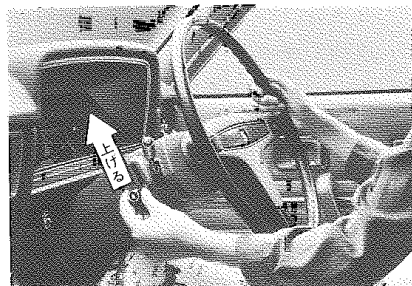
▶ 駐車のしかた



駐車ブレーキ・レバーを引き、チェンジ・レバーの位置をトランスミッション車はロー（1速）またはリバース（後退）、オートマチック・トランスミッション車は②に入れ、坂道では輪止めを忘れずにしてください。

なお、急な坂道での駐車はなるべくさけてください。

■チルト・ステアリング（上下調整式ハンドル）の調整 ＊



ツマミを押し上げている間、ハンドル位置を上下に変えることができます。

1. 適切な位置でツマミをはなせば、ハンドルはその位置で固定されます。
2. 調整後は、ハンドルを上下に動かして固定されたことを確認してください。



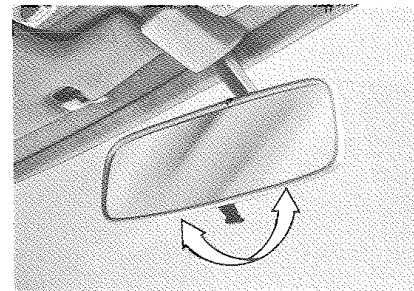
ハンドルの位置調整は、車を運転する前に行なってください。車が動いているときの調整は、危険です。

■ミラー調整

後方視野が十分確認できる位置に調整しましょう。

▶ 防眩式ルーム・ミラー

STD車は除く

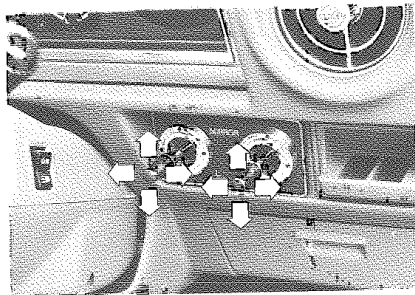


後続車の前照灯がミラーに反射してまぶしいとき、ミラーの下にあるレバーを手前に引くと後続車の前照灯の確認が楽になります。

ハードトップ車の場合、夜間に仕切り板（32ページ参照）をひらいた状態で走行するとミラーに後退灯の光が映ることがあります。その場合は通常的位置（レバーを前側に倒した位置）にしてください。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

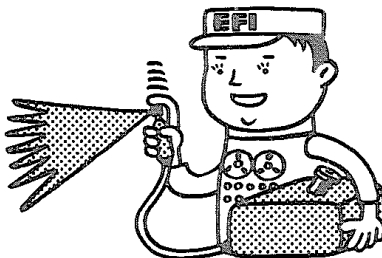
▶ 電動フェンダー・ミラー *



上下左右のツマミの動きは、フェンダー・ミラーと連動になっています。

■EFI (電子制御式燃料噴射装置)

M-EU, 4M-EUエンジンとう載車



無線装置を取り付けると、エンジンに異常をきたすことがあります。取り付ける際には取り扱い店にご相談ください。

■ESC

(電子制御式横すべり防止装置) *

ESCはすべりやすい路面や、高速走行における制動時の横すべりを防止する装置です。

〈走行前のチェック〉

1. ブレーキ・ペダルを踏み、エンジン・スイッチをONにすると、エンジン・ルームから作動音“ゴトン”が聞こえます。
2. 作動音が聞こえたらESCは正常です。

〈走行中のチェック〉

走行中、赤色のブレーキ警告灯が点灯した場合は、ESCなどブレーキ系統に故障が生じています。

☆万一ESCが、走行中故障した場合には、普通のブレーキ機構にもどります。

☆無線装置を取り付けるとESCが、誤って作動することがあります。取り付ける際には取り扱い店にご相談ください。

■ オート・ドライブ

(自動定速走行装置) *
作動表示灯



メイン・スイッチ コントロール・スイッチ
オート・ドライブはアクセル・ペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。40～100km/hの任意の速度で定速走行することができます。

1. 希望速度にセットするとき

メイン・スイッチを押すと、作動表示灯が点灯します。次にコントロール・スイッチをSET側にいったん押すと、そのときの速度にセットされます。

2. 一時的に増速したいとき

(オート・ドライブ走行中)
アクセル・ペダルをそのまま踏み込んでください。アクセル・ペダルをはなせば再びもとの設定速度

にもどります。

3. 増速セットするとき

(オート・ドライブ走行中)
アクセル・ペダルをそのまま踏み込んで希望の速度に達したら、コントロール・スイッチをSET側にします。

4. 減速セットするとき

(オート・ドライブ走行中)
ブレーキ・ペダルを踏むことにより減速して、希望速度まで減速したらコントロール・スイッチをSET側にします。

5. オート・ドライブ状態を解除するとき

ブレーキ・ペダルを軽く踏みます。

6. 次の場合も解除できます。

- (1)メイン・スイッチを「OFF」にしたとき
- (2)チェンジ・レバーを④にしたとき
(オートマチック・トランスミッション車)
- (3)クラッチ・ペダルを踏んだとき
(トランスミッション車)

- (4)車速が約40km/h以下になったとき
- (5)駐車ブレーキ・レバーを引いたとき

7. 解除前の設定速度に復帰させたいとき

5.および6.の(2),(3),(5)の解除方法で一度、オート・ドライブが解除されても、車速が40km/h以上であればコントロール・スイッチをRESUME(復帰)側に押すことにより、自動的に解除される前の設定速度までもどり、その後、定速走行を維持します。

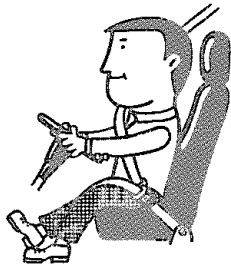


1. メイン・スイッチをOFFにすれば、オート・ドライブの全動作を停止、解除できます。
2. オート・ドライブを使用しないときは、安全のためメイン・スイッチをOFFにしておいてください。
3. ブレーキ・ペダルの操作により解除するときは後続車に注意して行なってください。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

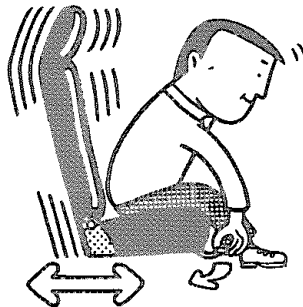
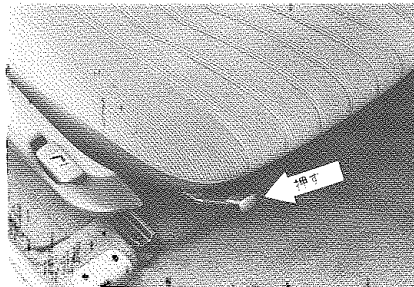
シートの調整

■ フロント・シートの位置調整



ペダルを十分踏み込むことができる、ゆとりある位置に調整しましょう。位置調整は必ず走行前に行なってください。

▶ 前後位置調整

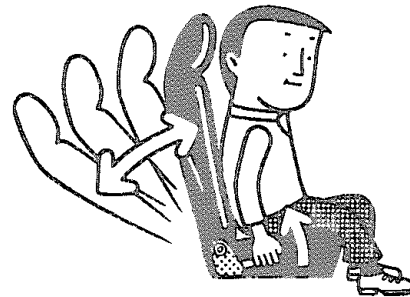
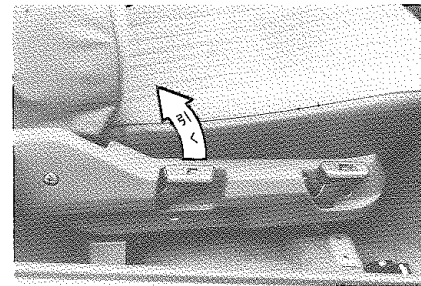


レバーを外側に押ししている間、前後の位置調整ができます。

調整後はシートが固定されたことを確認してください。

▶ リクライニング(背もたれ角度)調整

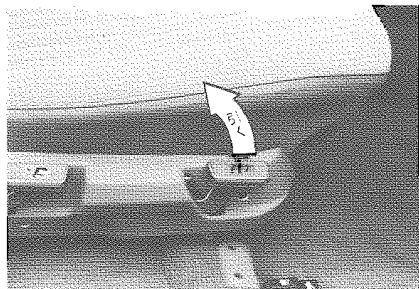
ベンチ・シート車を除く



レバーを引き上げると、背もたれの角度が調整できます。

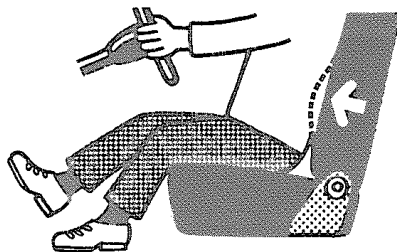
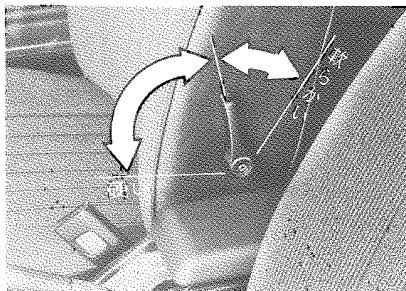
調整後は背もたれが固定されたことを確認してください。

■ シート上下位置調整装置 *



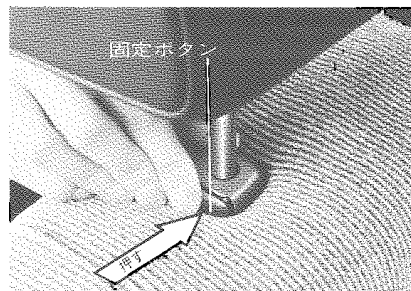
運転席右横のレバーを引いてシート・クッション前部の高さを3段階（上、中、下）に調整することができます。適切な高さにした後、レバーをはなすとシート・クッションは固定されます。調整後はシートが固定されたことを確認してください。

■ ランバー・サポート（腰部当たり調整） *



レバー操作で、背もたれの腰部の硬さを3段に変えられます。

■ ヘッド・レストの位置調整



ヘッド・レストの高さが耳の後方になるように調節位置を選んでください。上げるときはそのまま引き上げ、下げる時は固定ボタンを押しながら下げます。



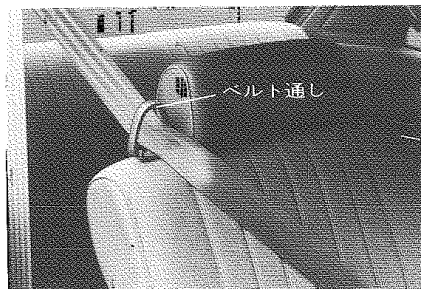
1. 正しい位置で使用してください。
2. 背もたれと背中の上に厚いクッションなどを入れると危険防止に役立ちません。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■ リヤ・シートへの乗り降り

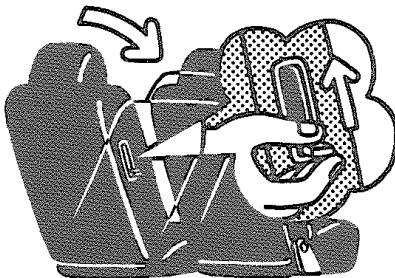
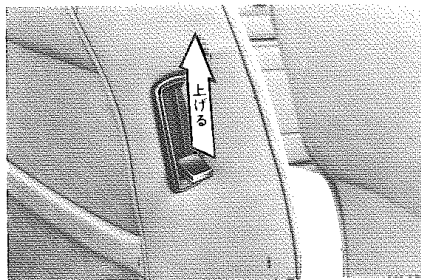
ハードトップ車

〈運転席側〉



リクライニング調整レバーで背もたれを倒します。ヘッド・レスト横のベルト通しからベルトをはずしておいてください。

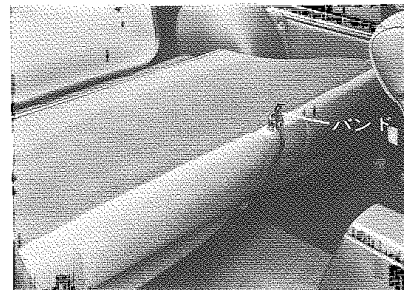
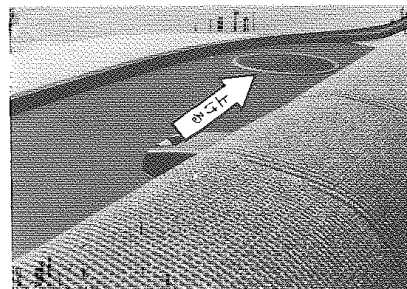
〈助手席側〉



1. 背もたれ横のレバー（助手席側のみ）または、リクライニング調整レバーで背もたれを倒します。助手席シート全体が前方へ移動します。
2. 助手席をもとにもどすときは、背もたれを起こしてシート全体を後方へ押すと、中央の位置で固定されます。

■ リヤ・シート *

ハードトップ車

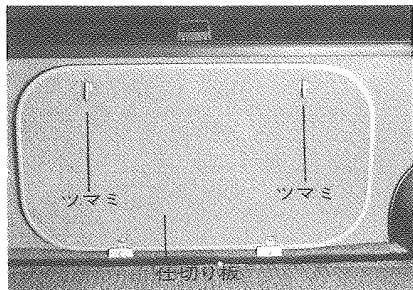


リヤ・シートを倒すことにより手荷物を置くことができます。

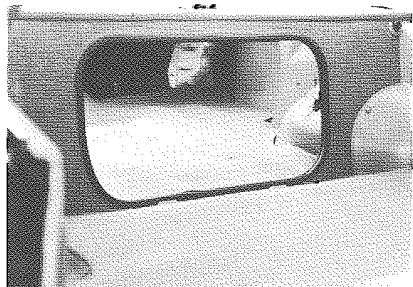
1. レバーを持ち上げて背もたれを倒します。
2. バンドで背もたれを固定します。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

▶長い物(スキー板)などを積むには

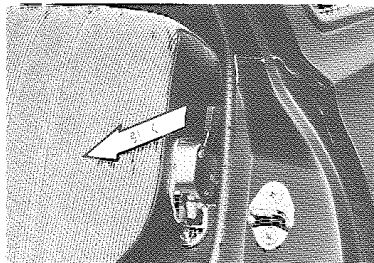


ツマミを回して取りはずします。

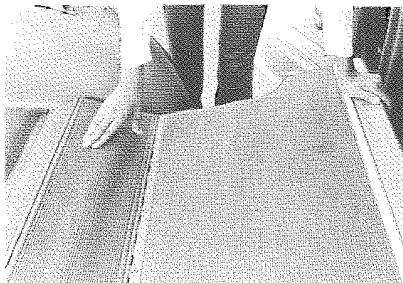


取り付けるときは、仕切り板下方の丸印と矢印を合わせます。

ワゴン/バン、ハンドル・チェンジ車



1. 固定レバーを前に引きます。

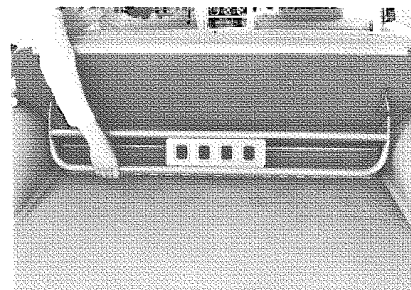


2. 背もたれを前に倒し、中央部の板を押え固定します。

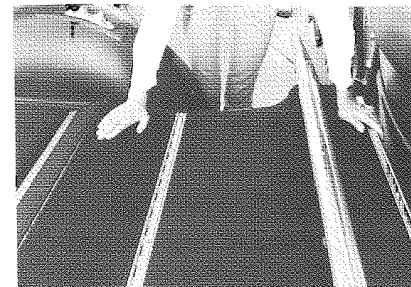
3. 起こすときは、中央部の板を持ち上げて起こして下さい。

うしろに押えつけ、確実に固定してください。

バン、フロア・チェンジ車



1. 背もたれ裏のハンドルを引き上げてから前に倒します。



2. 中央部の板を押えつけ固定し、次にハンドルを起こしてください。

3. 起こすときは、中央部の板を持ち上げてから、背もたれを起こします。
- いっばいに起こしてからハンドルを倒し、背もたれを押えつけて固定します。

シート・ベルト の装着

運転者と同乗者の安全を守るために、フロント・シートおよびリヤ・シートにシート・ベルトが装備されています。シート・ベルトは正しく装着しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法、注意にしながらベルトの正しい取り扱いを身につけてください。

★車を運転する前には必ずシート・ベルトを装着してください。

★腰部ベルトは、必ず腰骨の位置に装着してください。軟らかい腹部にかけると万一のとき強い圧迫をうける危険な場合があります。

■フロント・シート・ベルト

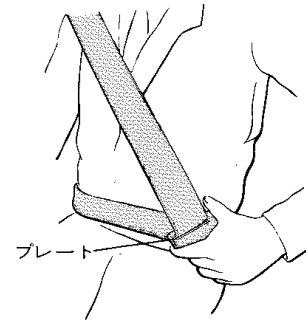
〈装着のしかた〉

▶緊急時固定式シート・ベルト

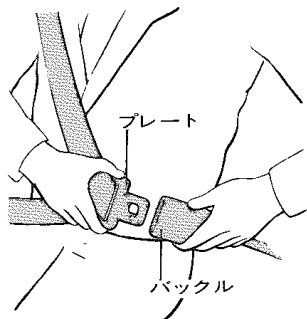
セダン/バンのSTD車は除く

通常は引き出し、巻き取りが自由なため、ベルトの長さを調節する必要はありません。ただし、緊急時には自動的にロックされます。

1. シートを調整し、正しい姿勢ですわります。
2. 巻き取り装置からプレートを持ってゆっくり引き出し、ねじれていないことを確かめます。



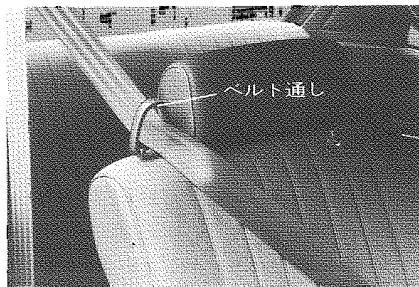
3. プレートをカチッと音がするまで確実にバックルに差し込みます。



4. 腰部ベルトは必ず腰骨の位置にかかるようにし、肩ベルトを少し引いて腰部のゆるみがないようにします。



ハードトップ車のみベルト通しが装備してあります。肩ベルトをベルト通しに通してください。



▶ベルト圧迫感減少装置付き緊急時固定式シート・ベルト

ハードトップ車

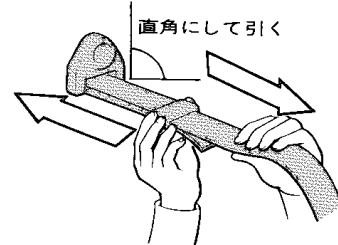
取り扱いには緊急時固定式シート・ベルトと同じです。

シート・ベルト装着後、肩ベルトを少し引っ張ってゆっくりもどすと、ベルト圧迫感減少装置が作動して、シート・ベルトによる肩への圧迫感が少なくなります。

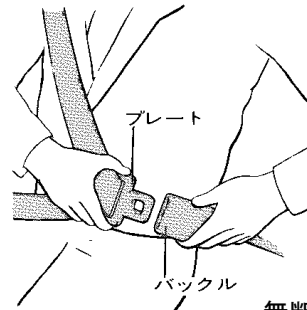
▶巻き取り装置付きシート・ベルト

STD車のみ

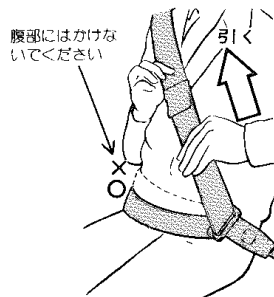
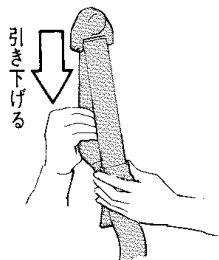
1. シートを調整し、正しい姿勢ですわります。
2. 肩ベルトを図のように伸ばします。



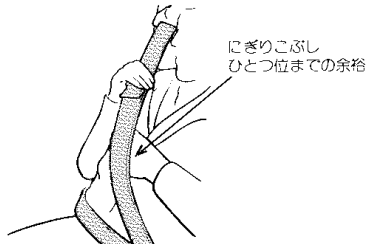
3. ベルトをいっぱい引き出し、ねじれていないことを確かめプレートをカチッと音がするまで確実にバックルに差し込みます。



4. ベルトをいっぱい引き出した状態で、腰部ベルトが必ず腰骨の位置にかかるようにし、肩ベルトを引いて腰部のゆるみがないようにします。

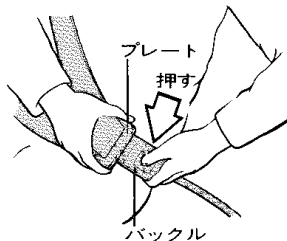


5. 胸と肩ベルトとの間の余裕は最大でもにぎりこぶしひとつはいるよう肩ベルトで調節します。余裕を取りすぎると万一の時、肩ベルトがずり落ちて効果が減少するおそれがあります。



<取りはずしかた>

バックルのボタンを押すとはずれます。



プレート側のベルトは自動巻き取り式ですので、ベルトをはずすと自動的に格納されます。

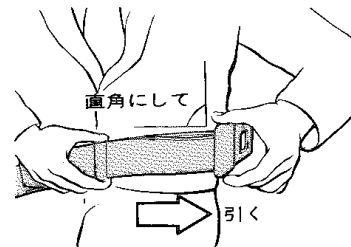
■リヤ・シート・ベルト

<装着のしかた>

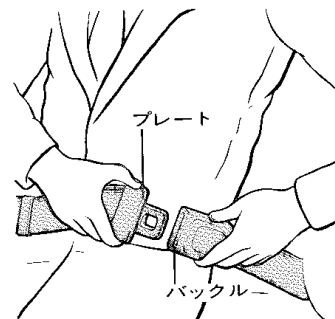
▶長さ調整式（2点）シート・ベルト

バン の STD, DX車は除く

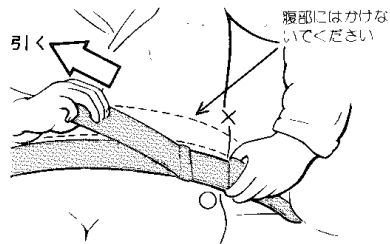
1. 正しい姿勢ですわりプレート側のベルトを少し長めにしてベルトがねじれていないことを確かめます。



2. プレートをカチッと音がするまで確実にバックルに差し込みます。

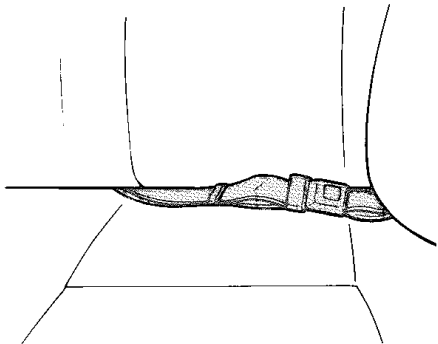


3. ベルトが必ず腰骨の位置にかかるようにし、腰部のゆるみをプレート側のベルトを引いてなくします。



<取りはずしかた>

バックルのボタンを押すとはずれます。



はずしたベルトは、プレートをバックルにはめておいてください。



1. フロント・シート・ベルトを装着した状態で、肩ベルトが首、あご、顔などに当たるようなお子様の場合は万一のとき危険ですから、リヤ・シートにすわり、リヤ・シート・ベルト（2点式）を装着してください。
また1人ですわることができない乳幼児の場合はシート・ベルトを使用しないでください。
2. ベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
3. 妊娠中の女性や疾患のある方のシート・ベルト装着は、万一の場合腹部などに強い圧力を受けるおそれがありますので医師に相談のうえご使用ください。
4. ベルトのよごれは、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使いブラシをかけて落としてください。
5. ドアへのはさみ込み、よごれなど

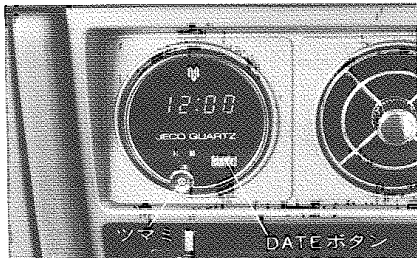
を防ぐため使用しないベルトは所定の位置に格納しておいてください。

6. ベルト各部の損傷、作動状態を点検しましょう。
ほつれ、すり切れができたり、金具部などが正常に作動しなくなった場合は、ベルトを交換してください。

室内装備の 使い方

■時計*

▶ 日づけ付き水晶式デジタル



エンジン・スイッチがACC, ONの位置のときに時刻が表示され, **DATE** ボタンを押すと約6秒間月日表示をします。

1. エンジン・スイッチをLOCKの位置にすると, 時計はそのまま作動しますが表示は消えます。
2. ライト・スイッチがONのときは, 減光して表示されます。

〈時刻調整〉

1. 時報に合わせるとき

ツマミを手前に引っ張ると同時に, スタートします。

また時刻は

0~29分は切り下げて表示されます。

(例) 1:29 → 1:00に調整されます。

30~59分は切り上げて表示されます。

(例) 1:40 → 2:00に調整されます。

2. “時”調整

ツマミを押したまま左へ回すと時間表示が早送りされます。

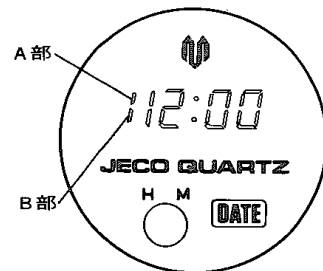
3. “分”調整

ツマミを押したまま右へ回すと分表示が早送りされます。

★時刻調整時, A部が点滅するときは午前を, B部が点滅するときは午後を示します。

時刻調整の時に午前と午後を正しく選択しないと日づけ変更が正しく行

なわれません。



〈日づけ調整〉

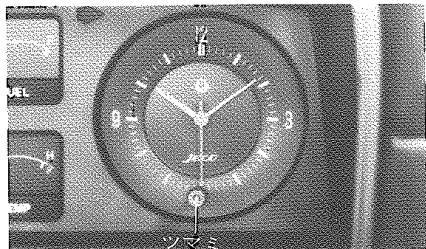
DATE ボタンを押して6秒以内にツマミを押して左へ回すと月が, 右に回すと日が早送りします。

★日づけ表示は2月の場合は29日まで表示しますのでうるう年以外の年には調整が必要です。2月以外の月は自動的に変更されますので調整の必要はありません。

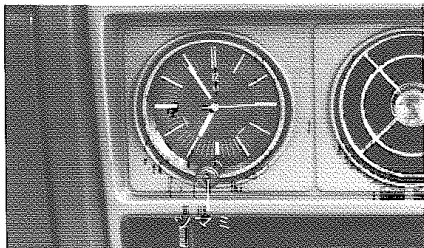
★一度電源が切れた(バッテリーをはずしたときなど)あと, 電源が接続されると1月1日1:00分にセットされ, 同時に表示が点滅し調整が必要なことを示しますので, 正しい月日, 時刻に調整してください。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

▶ 音さ式



▶ 水晶式

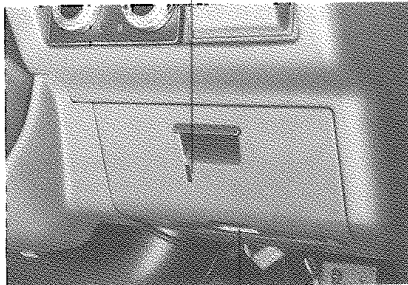


時刻調整は、ツマミを引いたまま回します。

音さ式時計はバッテリーをはずすと次につないでも時計は止まったままになります。ツマミをいっぱい引き手をはなすと秒針が動き始めます。

■ エンジン・キー照明 *

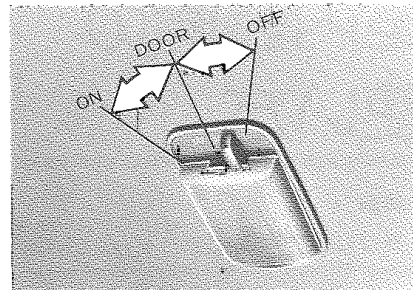
エンジン・キー照明



エンジン・キー照明

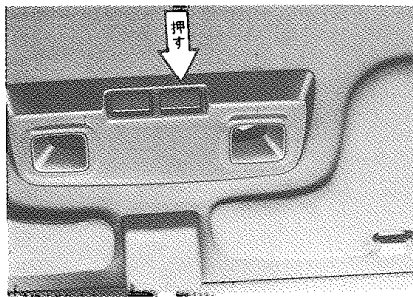
運転席側のドアにキーを差し込み、解錠位置に回すと、キーをもどしたときから約30秒間ヒューズ・ボックス内にあるライトが、エンジン・スイッチおよび足元を照らします。ただし、エンジン・スイッチをONにすると消灯します。

■ 室内灯とドアの関係 *



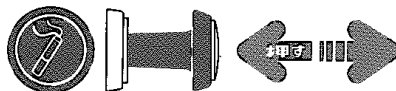
- ON.....ドアの開閉に関係なく点灯します。
- DOOR.....ドアをあけたときのみ点灯します。
- OFF.....ドアの開閉に関係なく消灯します。

■フロント・スポット・ライト *



スイッチ右側を押すと右側のライトが点灯します。もう一度押すと消灯します。左側も同様です。

■シガレット・ライター

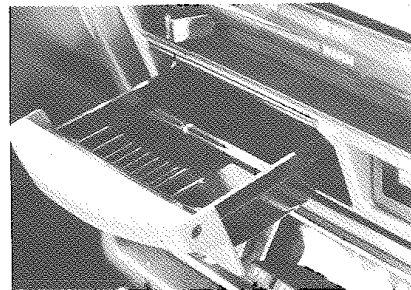


エンジン・スイッチがACCかONのとき使用できます。
つまみを押し込んだら、すぐ手をはなし、とび出すまで待ちます。



1. 押えつけたままにすると、シガレット・ライターが過熱し非常に危険です。
2. ソケットに他車のシガレット・ライターを差し込まないでください。
3. ソケットからは、湯わかし器などトヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。

■灰皿



掃除するときは下へ押しながら引き出してください。

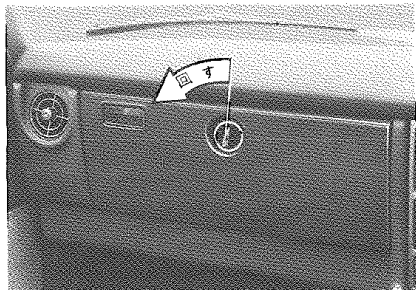


1. 使用後は確実にしめてください。
あけたままにするとタバコの火が他の吸いがらに燃えひろがり火災になるおそれがあります。
2. 灰皿には吸いがらをためすぎないでください。
3. 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
4. マッチ、タバコなどの火は消してから灰皿の中に入れてください。

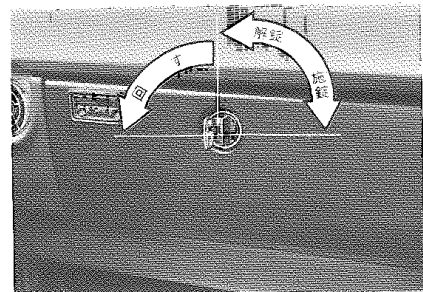
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■ グローブ・ボックス (小物入れ)

STD / タクシー仕様車



STD / タクシー仕様車を除く

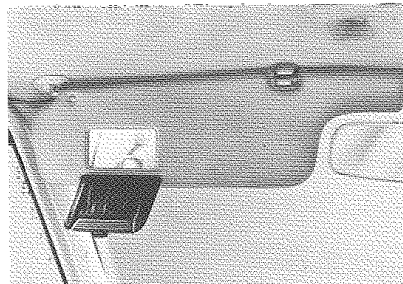


キーを差し込んで右へ回せば施錠できます。

サブ・キーは使用できません。

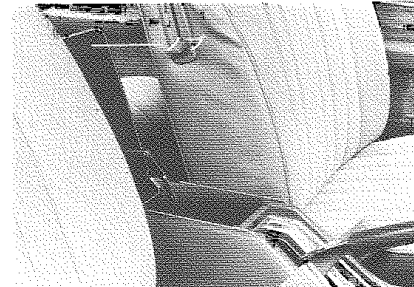
グローブ・ボックスをあけたまま走行すると危険です。必ずしめてください。

■ 化粧ミラー付きサン・バイザー (日よけ) *



助手席側サン・バイザーの裏側に、ミラーがついています。

■ コンソール・ボックス (小物入れ) *

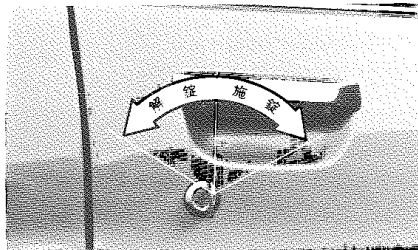


ノブを引くとフタをあけることができます。

* 印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください

車体各部の 開閉

■フロント・ドア



前へ回すと施錠，うしろへ回すと解錠になります。

☆車からはなれる時はエンジンを切つてドアを施錠してください。

法的にも義務づけられています。

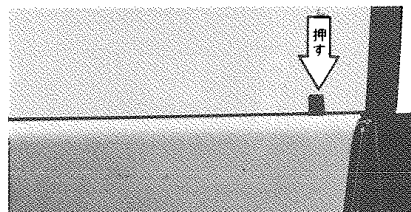
☆ドアをしめるときは確実にしめてください。

半ドアは危険です。

▶施錠するには

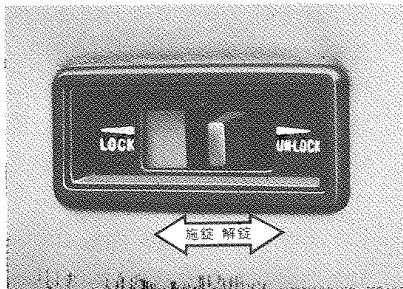
〈車内から〉

セダン/ワゴン/バン車



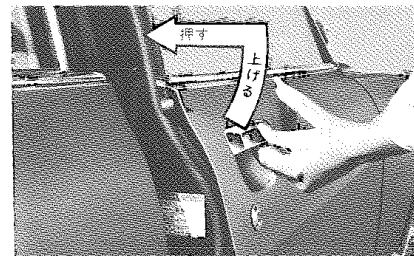
施錠ボタンを押します。

ハードトップ車



施錠レバーをLOCKの位置にします。

〈車外から〉——キーを使用しないとき



セダン/ワゴン/バン車

施錠ボタンを押し，ドア・ハンドルの内側を引き上げたままドアをしめます。

ハードトップ車

施錠レバーをLOCKの位置にし，ドア・ハンドルの内側を引き上げたままドアをしめます。

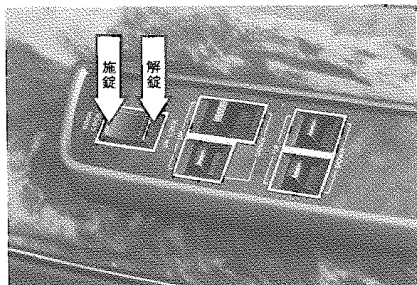
■リヤ・ドア

セダン/ワゴン/バン車

施錠ボタンを押し，ドアをしめます。

■電磁式ドア施錠装置

GRANDE車のみ

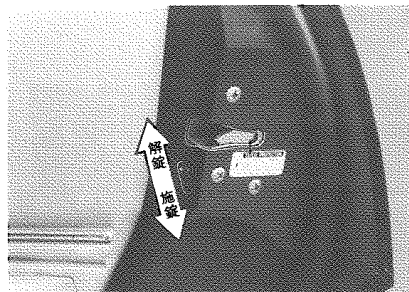


1. 運転席側のドアにスイッチがついています。
2. スイッチのDOOR LOCK (施錠) 側を押すと全ドアが施錠されます。
3. UN LOCK (解錠) 側を押すと運転席以外のドアが解錠されます。運転席ドアは、ドア・レバーを引けば解錠されます。
4. スイッチを押し続けると作動しないことがあります。いったんスイッチをはなして再度押してください。

■チャイルド・プロテクター

セダン車のみ

(安全施錠装置)

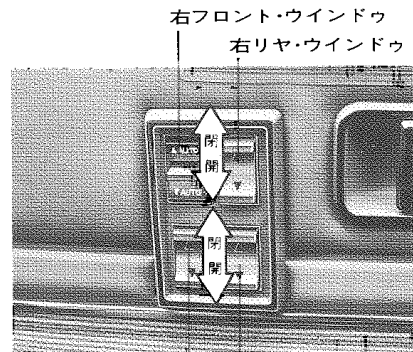


安全をはかるためにリヤ・ドアにはチャイルド・プロテクターがついています。お子様を乗せるときなどにご利用ください。

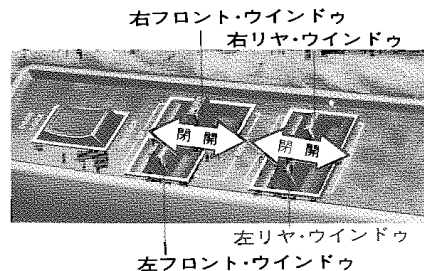
1. 施錠の位置にしてドアをとじると、施錠ボタンの位置 (施錠または解錠) には関係なくドアは車内からはあきません。
2. ドアをひらく場合は、施錠ボタンを引き出したうえ、車外からドア・ハンドルを引きます。
3. 室内からあけたい場合は、施錠ボタンを引き出しドア・ガラスを下げ、窓から手を外に出しドア・ハンドルを引いてください。

■電動ウインドウ *

GRANDE車を除く



GRANDE車のみ



運転席側には、全ドアのウインドウ・ガラスを開閉できるスイッチが取り付けられています。

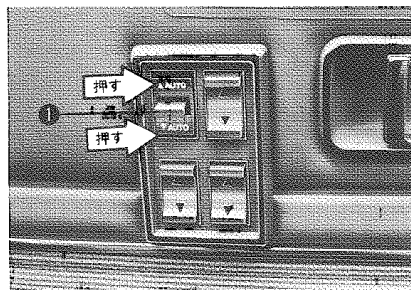
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

その他のドアにもそれぞれのウィンドウ・ガラスを開閉できるスイッチがついています。

右フロント・ウィンドウは**AUTO**を1度押すだけで全開、全閉することができます。

▶右フロント・ウィンドウの開閉

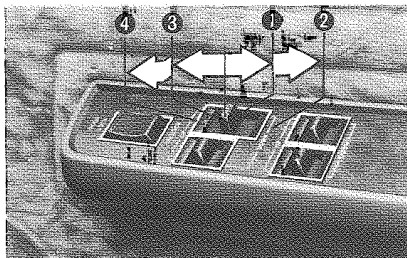
GRANDE車を除く



上側の**AUTO**を押すと全閉、下側の**AUTO**を押すと全開します。

途中で止めたいときは、①のスイッチを逆方向に押してください。

GRANDE車のみ



1. ①押している間下降します。
2. ②自動で全開します。
3. ③押している間上昇します。
4. ③の位置でスイッチをいったん下に押し、④の位置まで動かすと自動で全閉します。

自動開閉を途中で止めるには、スイッチを③または①の位置にしてください。

★ウィンドウの開閉は、エンジンがかかっているときに行なってください。

★しめるとき手などをはさまないように注意してください。

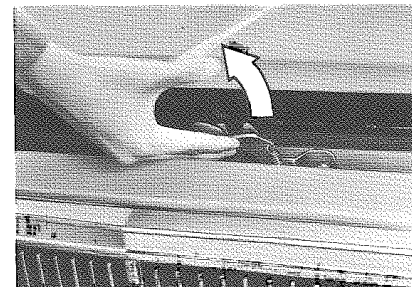
★運転席側スイッチと他のスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。

■ボンネット

1. 計器盤右下のレバーを引きます。



2. ボンネットのすき間に手を入れ、ボンネット・ロックをはずしてボンネットをいっぱいあけます。



3. とじるときは、ボンネットを下げ、て前端を押えつけ、しっかりロックしてください。



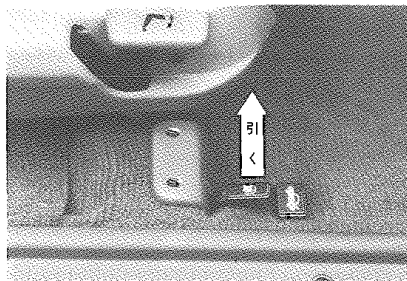
ボンネットが、半ロックのままで走行すると非常に危険です。確実にロックしていることを確かめてください。

■ 燃料タンク・キャップ

〈車内から〉

——燃料補給口オープナーで

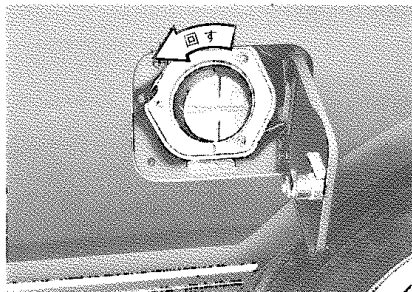
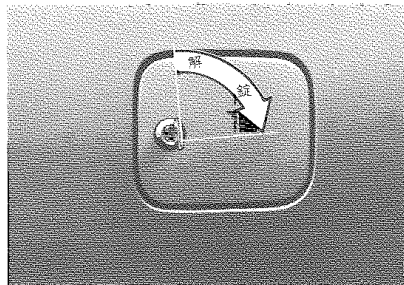
STD車を除く



運転席のシート右下のレバーを上へ引くとカバーがひらきます。

エンジン・キーをLOCKの位置にしてからレバーを引くようにしてください。

〈車外から〉——キーを使って



キーを右に回したまま手前に引き、燃料補給口のふたをあけます。キャップは左に回すとはずれます。

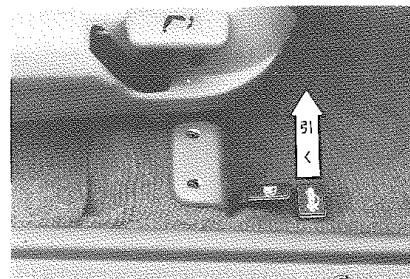
燃料補給のときは、必ずエンジンを停止してください。

■ トランク

〈車内から〉

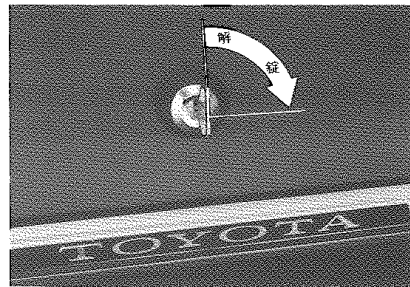
——トランク・オープナーで

バン/ワゴン/STD車を除く



運転席のシート右下にある、レバーを引き上げてください。

〈車外から〉——キーを使って



キーを差し込み、右に回します。

サブ・キーは使用できません。

とじるときは、上から手で押えつけてロックしてください。

また、キーを差し込み左に回しておけば、トランク・オープナーではトランクをあけることができません。

キーをトランク内に置き忘れないようにしてください。

▶トランク灯 *

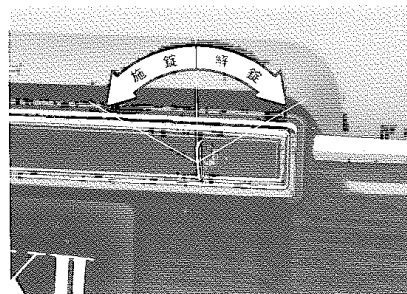
トランクをあけると点灯します。

■バック・ドア

バン/ワゴン車



1. バック・ドア・ハンドルの内側を引き上げます。
2. ひらくと、バック・ドア灯がつかます。
3. とじるときは、バック・ドアをそのままおろし、上から押えつけます。



4. キーを差し込み、左へ回すと施錠できます。

※注意

1. 走行中にひらくと危険です。確実に施錠されていることを確かめてください。
2. 荷台には、人を乗せないでください。万一の場合、ケガをするおそれがあります。
3. バック・ドアは、いっぱい上に持ち上げて降下しないことを確認してください。
4. バック・ドアをしめるとき、他の人の手などをはさまないように注意してください。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

